

セッション3 看護技術

09. DWの指標とする心胸郭比測定について

○松下 雄太 (マツタムタ)¹⁾、西後 孝弘¹⁾、濱田 真帆¹⁾、小山 裕未¹⁾、加藤 秀美¹⁾、
十萬 景子¹⁾、藤井 茂人¹⁾、野口あやこ¹⁾、村石 州啓¹⁾、大前 清嗣²⁾、箕輪 久²⁾、
吉川 尚男²⁾、吉川 昌男²⁾

(医) 宝池会 吉川内科医院 ME部¹⁾、診療部²⁾

【目的】

一般的なDW指標の一つである心胸郭比（以下CTR）を透析前のCTR（前CTR）と透析後のCTR（後CTR）で比較検討した。

【対象】

心機能に問題のない夜間透析患者28名

【方法】

期間は2016年1月～2016年12月までの1年間。

偶数、奇数月で前CTRと後CTRを交互に測定し、患者個々の平均値を算出し前後の平均値の差を求めた。（以降平均CTR）

患者全員の平均CTRの標準偏差を求め正規分布より外れた7名（下限4名、上限3名）に対して除水量、透析中の平均血圧、総蛋白（以下TP）を比較した。また、手足首径を前後で測定し径から面積を求め、前後での変化を調べた。

【結果】

平均血圧では透析開始時と終了前の差が下限8.6 [mmHg]、上限11.7 [mmHg]と有意な変化は認められなかった。また、除水量でも有意な変化を認めなかった。

TPでは下限1.1 [g/dl]、上限1.2 [g/dl]と有意な変化を認めなかった。

手足首径面積変化は、下限15.2 [cm²]、上限15.9 [cm²]であり変化は認めなかった。

【考察】

透析前と後でCTRの変化が認められない患者においても、末梢の浮腫にも大きな差が認めなかったことから、体内水分量は体幹全体に分布がされていると思われた。このことより、毎月の透析後CTRが変化を認めない状態においても水分過多になっていることが考えられた。

【結語】

DW設定には、体重が増えている時のCTRも確認する必要があると思われた。